



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社タジマ (B) —創業期—

5

1951年(創業)～1969年(富士通長野工場から受注)

古くから長野県上田市は養蚕と絹糸が特産品で、明治初期になると器械製糸が始まり、明治30年(1897年)代には大規模な織物工場へと発展した。しかし、1929年の世界恐慌で生糸の価格が大正期(1912～1926年)の半額へと落ち込み、その後製糸業は衰退していった。

10

このため、当時の市は産業の転換を図るべく、工場の積極的な誘致を開始した。1939年に始まった第二次世界大戦は、上田の産業構造にも大きな影響を与えた。軍需産業の進出と、大都市の空襲による工場の地方疎開などにより、上田の産業は機械金属工業が主体になっていった。

15

そのような産業の歴史を辿っていた長野県小県郡丸子町(現上田市)に、1924年、タジマの現会長である田島正一(写真1)は産まれた。14歳で尋常高等小学校を卒業した正一は、上田市にあった金営社という社員数十二、三人の鉄工所に初期奉公に入った。

正一が学校を卒業した1938年は、上記の通り、長野県上田市が工場の誘致などを通じ産業の転換を図っている時代であった。工場だけでなく、工場において指導を行う技術者も工場長や経営者として多く招かれていた。金営社の社長も、上田市が産業の転換を期して招いた技術者であり、丁稚で入った大阪の工場で自動車の機械を覚え、職人が少なかった時代に冶金学という専門を身につけ、板金や鉄骨、鍛冶を業種としていた。

20

金営社へ入る際に口をきいてくれ、更に年季が明けると入社する事になった綿谷製作所の綿谷善蔵氏(写真2)も、そのような時代に招かれた技術者の一人であった。綿谷善蔵氏は舞鶴海軍工廠等に勤務し、そこで体得した精巧な技術を指導していたが、技術者を育成する傍ら自主独立

25

本ケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科 M31 期生田島佳典、同博士課程 D19 期生山口 淳が、河野宏和教授の指導の下で作成した。本ケースはクラス討議の資料として用いるためのもので、経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 河野宏和・田島佳典・山口 淳 (2010年5月作成)